

## 今日の説教のポイント<マタイによる福音書 18 章 10~14 節>

### ①「小さな者」—「迷い出た羊」—「教会から離れて行った人」

マタイは 18 章で教会のことを考えています。その 18 章で「小さな者」は自分を低くする謙虚な者(4)を指し、主イエスを信じる全ての人(6)のことを意味して来ました。そして、その「小さい者」は神様の目に尊いと言われた(10)後、「迷い出た羊」に例えられて行くのです(12 節以下)。それは「教会から離れて行った人」のことを指しているのです!

### ②羊飼いは、99 匹を残して迷い出た一匹を探しに行くか?

イエス様は、「羊飼いは 99 匹を残して、迷い出た一匹を探しに行く」、と当然のように言われますが、これは実際の羊飼いと違います。「99 匹が無事なら、一匹を失っても仕方ない。残った羊を守らなければ」、そう思うのが普通です。ですから、イエス様が言われていることは当然のことではないのです! しかも、その迷い出た羊は、放蕩息子のよう(ルカ 15:17 以下)自分が間違っていたと気づいたとも記されず、狼に襲われたと記されているわけでもありません。その羊を探しに 99 匹を残して行くと言われるのです! これが聖書の神様なのです!

### ③迷わずにいた 99 匹はどう思えばいい? どうすればいい?

残された 99 匹のことはどうなっているのでしょうか? 「自分たちのことも忘れないでほしい」と訴えてもいいような気がしませんか? いいえ、そうではありません。「私たちは自分たちが神様の恵みと守りの中に置かれていることが分かった。だからもう私たちは大丈夫です。あなたは迷い出た一匹を探しに行ってください」、そう言うべきなのです。だとすると思います、「迷い出た羊」は、教会から離れた者を指すだけでなく、なお信仰薄く、不平不満の多い私たち自身のことも含み入れなければならないのだと。神様のこの尋常でない羊飼いの深い愛は、私たちにも向けられているのです! 今日は礼拝後に教会総会を行います。残された羊は教会員、探しに行く羊飼いは牧師だとするならば、まさに総会前に読むにふさわしい箇所が与えられたのではないのでしょうか!